

# 凍結による給湯設備の破損を防ぐために

冬場は給水・給湯配管やガス給湯器内部が凍結してしまうおそれがあります。低温注意報が発令されたときや、冷え込みが厳しいときは、あらかじめ以下の処置を行い、凍結を予防しましょう。



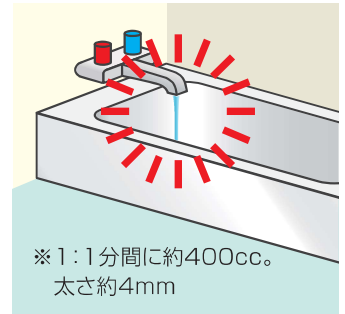
## 給湯栓の凍結を予防

給水および給湯配管や給水元栓の凍結を防ぐため以下の通水の処置をしてください。機器だけでなく、給水・給湯配管、給水元栓なども同時に凍結予防できます。

運転スイッチを「切」にする。

ガス栓を閉める。  
(石油給湯機の場合はオイルタンクの送油バルブを閉める)

おふろの給湯栓を開いて、少量の水<sup>\*1</sup>を流したままにしておく。



※1:1分間に約400cc。  
太さ約4mm

※ガス給湯暖房用熱源機をご使用の場合で、不凍液をご使用でない場合は、ガス栓を開いたままにしておいてください。自動的に暖房運転(燃烧)し、暖房回路の水を温め、凍結を予防します。

※サーモスタット付混合水栓の場合は、最高温度の位置に設定してください。念のため、約30分後に再度流れる量を確認してください。

※サーモスタット付混合水栓やシングルレバー混合水栓の場合は、やけど予防のため再使用時の温度設定にご注意ください。

## ガス給湯器本体の凍結を予防

給湯機器の器具内の凍結予防ヒーターが、凍結の危険のある気温近くになると自動的に作動します。電源プラグを抜くと作動しないため、電源プラグは抜かないでください。





※運転スイッチ「入・切」に関係なく凍結予防します。

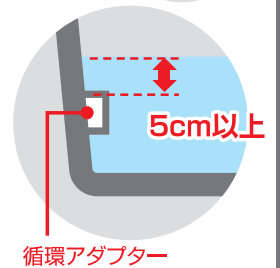
※給水・給湯配管や、給水元栓およびふろ配管などの凍結は予防できません。必ず保温材または電気ヒータを巻くなどの地域に応じた処置をしてください。(わからないときは、販売店に確認してください。)

## 追いだき機能付きふろがまの凍結を予防

浴槽の水を循環アダプター上部より5cm以上ある状態にしてください。



※ポンプが自動的に浴槽の水を循環させて、凍結を予防します。(ポンプが運転する音「ウーンという音」がします)  
※水がないとポンプが空運転し、機器から大きな音が発生する場合があります。  
※お使いのリモコンによって、凍結予防運転中にはリモコン画面に「」又は「」マークが表示されます。  
(700/900シリーズリモコン)



## ⚠️ 転居時のお願い

転居時にブレーカーを切ってしまうと給湯器が凍結する場合があります。ご転居の際には、**必ず販売店(お問い合わせ先)にご連絡くださいますようお願い致します。**

万が一、入居者様の過失により給湯器が破損した場合の修理費は、入居者様のご負担になる場合がございます。ご注意ください。



## ⚠️ もしも凍結してしまったら!

気温の上昇により自然解凍するまで待つことをお勧めしますが、すぐにお湯を使いたい場合は、以下の方法をお試し下さい。

- ① 布を給水元栓の周りに巻く。
- ② ①の給水元栓にゆっくりとぬるま湯(常温に近いもの)をかける。
- ③ 給水元栓が回るようになったら、家の給湯栓を閉める。
- ④ 布を外し、給湯栓の周りに付いた水滴を乾いた布でふき取る。

■ お問い合わせ



パーパス株式会社

お客様相談室  
商品や技術のお問い合わせなど

TEL.0545-32-1389\*

受付時間  
平日 / 9:00~19:00  
土曜日・日曜日・祝日 / 9:00~17:00

\*通話料がかかります。

ご連絡いただいた個人情報、弊社規定によりお問い合わせに対応に必要な範囲内で使用します。お問い合わせ内容につきましては、個人を特定できないデータに加工した後、サービス向上などのために利用いたします。